

1 単元 思い出スライドをつくろう

2 目標

楽しかった場面の画像を見て、自分が伝えたいことを明らかにし、聞き手を意識しながら説明をすることができる。

3 活用した ICT

デジタルカメラ、電子黒板

4 活用した ICT の特性

- ・ 見たものを手軽に正確に記録しておくことができる。(デジタルカメラ)
- ・ 画像を投影し、拡大して提示したり、キーワードを書き込んで保存したりすることができる。(電子黒板)

5 実践の様子

活動を思い出す ← 画像にキーワードを書き込む

自分が伝えたいと感じた場面についてくわしく思い出すために、電子黒板を用いて画像を投影し、教師とともにキーワードの書き込みをしていった。その時に、同じ色で書き込みをすると、何が大切なキーワードなのかわからなくなってしまい、見づらくなってしまったので、「いつ」に関することは黄色、「だれが」に関することは桃色、「何をしている」に関することは青色で書き込みをした。画像ごとに子どもたちとやりとりをしながら、キーワードを書き込んでいった。

気持ちに気付く ← 画像にふきだしを書き込む

次に、様子に加えて、自分の気持ちについても画像に書き込むようにした。子どもたちが気持ちを交えて発表するようにしたいと思ったからである。また、「気持ち」についても色分けして書き込みたいと考えたので、緑色で書き込むことにした。

また、気持ちを視覚化して表すために、気持ちをふきだしにして書き込んだ。画像に私がふきだしを付け、「どんな気持ちだったかな」と子どもたちにたずねると、少し考えた後、その時の自分の気持ちを答えることができた。ふきだしに気持ちを書き込むという活動が親しみやすかったようで、他の画像についても気持ちを答えることができた。



キーワードを書き込んだ画像

書き込んだものを電子黒板の保存機能を用いて、コンピュータの中に取り込んだ。印刷して、画像を見ながら原稿を書くことができるようにするためである。その画像を活用してプリントを作成した。書き込まれたキーワードをもとに子どもたちは原稿作りに取り組んだ。色分けして書き込まれているため、それらを整理しながら、原稿を書くことができた。

気持ちを伝える ← 画像に丸を付けながら発表する

何度か練習を重ねた後、朝の学習の時間に、6年生を相手に発表活動を行った。伝える相手が多いことに緊張していたが、始めから終わりまで、途中で止まることなく発表をすることができた。画像の大切な部分に丸を付け、原稿を読むことができた。

6 成果と課題

- 色分けして書き込み、書き込んだものを保存したり、印刷したりすることによって、発表の原稿を無理なく書くことができた。
- 電子黒板を使って大切なところに丸を付けながら発表させることで A 児自身が伝えたいことを明確にすることができ、聞き手を意識しながら説明をすることができた。
- 電子黒板を使って、画像に色分けをして書き込み、それを保存したり印刷したりすることによって、自分が伝えたいことを明らかにすることができた。
- 「相手を見ながら話す」「ゆっくり話す」などの、話す時に気を付けるべきポイントを押さえることができなかった。今後は、話すポイントについても身に付けさせたい。



画像に丸を付けながら発表する児童

